

「BELIEVE」

BELIEVE

2015
秋号
VOL.54

」

特集 **ご存知ですか? 「認定看護師」**



Momoca「静かな昼下がり」・制作年/2013・素材/水性顔料、和紙〈エイブルアート・カンパニー所属 URL:<http://www.ableartcom.jp>〉

シリーズ **情熱の白衣 医師の素顔** 54 第二消化器外科部長 **金谷 誠一郎**

- 食だより〈「運動」について〉／お薬ミニ知識〈「不眠」と「お薬」について〉
- がんサポートチームからのお知らせ／国際医療救援部からのお知らせ ● 「かかりつけ医」を持ちましょう／登録医紹介

大阪赤十字病院の理念

わたしたちは
人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さんの権利

1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります



ご存知ですか？

「認定看護師」



認定看護師の徽章

認定看護師は、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を対象者へ提供することを目的としており、1996年から認定制度が始まりました。専門分野で6カ月以上の研修の後、日本看護協会の認定審査に合格すると認定看護師となり、名札に認定分野を記すとともに認定看護師の徽章を付けます。



▲当院の認定看護師

認定看護師の役割

認定看護師は特定の看護分野において、次の3つの役割を果たします(日本看護協会策定)。

1. 実践
個人、家族および集団に
対して、熟練した
看護技術を用いて
水準の高い看護を実践する。
2. 指導
看護実践を通して
看護職に対し指導を行う。
3. 相談
看護職に対し
コンサルテーションを行う。

当院では、「患者さんの意思を尊重し、その人がその人らしく生き、安心していただける看護を提供します」という看護部理念のもと、熟練した看護技術を用いたケアの提供を行います。

当院の認定看護師の多くは、専門分野に関連する病棟や外来に所属しています。患者さんやご家族のニーズや状態



に合わせ、専門的な知識や技術をより適切に提供できるように、自己研鑽とともに部署のスタッフを指導しています。

さらに、感染対策、褥瘡対策、がんサポートなどの医療チームとして多職種と協働し、チーム医療の推進と病院全体の看護の質の向上を目指し、日々活動しています。

情報社会といわれる昨今、治療やその後の管理について多くの情報を得ることが出来ます。多くの情報をどのようにご自身の治療や療養に取り入れていくか、どのように病気や治療に向き合っていくかなど、治療や療養生活についての意思決定を支援するために治療前から個別に相談に応じることが出来ます。病院を退院されても、患者さんが在宅で安心して暮らしていただけるように外来で直接相談に応じたり、地域の看護師と連携をとって患者さんに適切な方法を提案したりしています。また、「皮膚・排泄ケア」と「がん分野」では、外来で直接患者さんの社会生活を支援しています。治療が始まる前や治療継続中、今後の生活に対する不安や困りごとがありましたら、ひとりで抱えこまず、「〇〇について専門の看護師に相談したい」とお気軽に病院スタッフにお声をかけてください。

集中ケア 現場実践



人工呼吸器を装着されている患者さんのなかには、意識のない重篤な患者さんがいらっしゃいます。五感を働かせ、その方が何を必要とされているのか考えながらスタッフと一緒にケアを行っています。

救急看護 現場実践



救急看護認定看護師は、救命救急センターを受診する複数の患者さんのなかから、緊急度・重症度を判断するために、診療の優先順位を決定するトリアージを実施することで、重症化が最小限となるように努めています。

手術看護 現場実践



手術を受けることを決心された患者さんやそのご家族のお気持ちを大切に、認定看護師として手術看護の専門的な知識や技術を活かし、医師や他職種と連携を図りながら、手術が成功するよう精一杯看護しています。



▲学会発表に対する意見交換会議

認定看護師は、最新の知識や技術を常に研鑽するために院内外で情報交換し、それぞれの資質を高める努力をしています。また、認定看護師が直接出会えない患者さんに対して質の高い医療が提供できるように、院内のスタッフ教育や院内組織での活動に取り組んでいます。分野が違う認定看護師が月1回集まり、ケアの質の向上に向けた話し合いや、自己研鑽を互いにサポートする会議を開いています。

認定看護師会の活動



2015年8月現在

当院の認定看護師の紹介

現在全国の認定看護師は21分野、15,935人で、当院には14分野23人が在籍しています。

認定看護師	当院在籍数	大阪府登録者数	全国登録者数
救急看護	2	128	1,021
集中ケア	2	58	1,033
小児救急看護	1	13	228
新生児集中ケア	1	25	366
手術看護	1	34	399
がん化学療法看護	2	91	1,384
がん性疼痛看護	2	81	769
緩和ケア	1	103	1,849
乳がん看護	1	20	283
がん放射線療法看護	1	18	200
皮膚・排泄ケア	5	145	2,166
感染管理	2	149	2,317
摂食嚥下看護	1	27	595
認知症看護	1	43	653
合計	23		



▶各プロジェクトごとのミーティングの様子



地域連携交流会 地域連携

～認定看護師と学ぶエキスパートな対策～



看護フォーラム

訪問看護ステーションや近隣病院の看護師を対象に交流会を開催しています。テーマに沿った最新知識を提供し、その後のディスカッションでは患者さんの在宅療養支援の問題を共有して、地域連携の課題やお互いの役割を明確化する機会となっています。

感染管理[手指衛生教育] スタッフ教育



感染管理の基本である「手指衛生」は、特に重点を置いて教育しています。手指衛生実習では、蛍光塗料を塗布して塗り残し・洗い残しを目視で確認することで、自分の傾向を知り、正しい手指衛生方法を身に付けます。

皮膚・排泄ケア 看護外来

[ストーマケア外来]



ストーマ(人工肛門・人工膀胱)を持つ方が在宅で安心して生活できるように、ケアの方法や日常生活上の問題に対して相談を行っています。また、手術を受ける前からイメージして治療に臨めるように情報提供を行っています。

緩和ケア 地域連携



入退院支援課に所属し、療養場所やがんの病期に関係なく、患者さんとそのご家族が希望する療養場所で、その人らしく過ごせるように医療ソーシャルワーカーや地域・社会資源を活用した支援を行っています。

急性期分野 スタッフ教育

[フィジカルアセスメント研修]



身体に異常が起これば、できるだけ早期に変化を発見し、重症化を防ぐ必要があります。実際の患者さんを想定したシミュレーションモデルを使用して、患者さんの話を傾聴し情報を聴き出し、診て触れて聴診器で聴き、原因を予測し、緊急性や重症性を見極めることができる看護師を育成しています。

がん分野[がん看護相談] 看護外来



がん分野の認定看護師・専門看護師により、予約制で患者さんとそのご家族からの相談を受けています。がん告知や治療の説明を受けた後、「どうしたらよいのか」「がんとどのように向き合ったらよいのか」など、問題解決に向け支援を行っています。

金谷 誠一郎

第二消化器外科部長



SEICHIRO KANAYA

3月11日、富山県生まれ。昭和59年に滋賀医科大学卒業。同大学第二外科、京都大学医学部附属病院第二外科、姫路医療センター外科を経て、平成19年には藤田保健衛生大学上部消化器外科准教授として活躍。平成23年に当院消化器外科に赴任し、平成26年に第二外科部長に就任した。

術後、患者さんが良くなる姿が想像できる。
美しい手術で、多くの患者さんを助けたい。

手術の画像やデータをすべて公開。だからこそ技術が磨かれていきます。

「美しい手術は明らかに成績が違います。」と、言葉だけを聞くと誤解を与えるかもしれないが、これは術中の手際や仕上がりがきれいにできると、合併症が少なく、術後の患者さんの調子も良いということ。第二消化器外科部長の金谷医師は、胃食道を含む上部消化器を専門とし、若手医師とともに腹腔鏡治療を行っている。「腹腔鏡の手術は簡単に言えば、『ここを切つて、はがして、つなげて』と開腹手術と同じように行います。違いは、道具を変えて、モニターを見て行うということですね。」

「腹腔鏡手術は、裸眼では見えにくい部分もモニターからはつきりと見えるので、神経の細かい部分でも切除するところはきれいに取り、温存するところは傷つけずに残せます。」つらい、痛い思いをしてきた患者さんに、傷が小さく精度の高い手術ができたときは、『これで良くなってくれる』と患者さんが回復する様子を想像するのだそう。

そして金谷医師は、手術の画像やデータをすべてオープンにしている。「昔なら術者しか分からなかった手術の状態様子が、他の医師や医療スタッフにも共有できます。画像を見ればちゃんとした手術をしているか、一瞬で分かります。」手術や学会の発表で情報が開かれれば、何をしているか、ごまかしのしようがない。「学会に行くと、『画像を見れば、努力をしているのが分かる』と、同じように努力をしている医師たちと仲良くなるんです。」と話してくれた。

休日は電車で日帰り旅行。関西のいろいろな場所を訪ねます。

当院に来てから、まだ大阪・関西をよく知らないという金谷医師。「たまにですが、休みに半日の日帰り旅行に行ったりします。アクセスのいい場所に住んでいるので、朝早くに出で、電車で観光地を訪ねています。若手医師ががんばってくれているおかげで、病院に呼び出されることもあまりないですね。」



今年の春、「韓国胃癌学会」に招かれ講演した金谷医師。講演後に、仲の良い韓国の医師の方々と撮った記念の一枚。

「当院の腹腔鏡手術の技術は、かなりレベルが高いと思います。」という金谷医師は、学会や発表会に若手医師を連れて行くのだそう。「彼らに当院の技術が世界でどんな評価を受けているか、また、世の中にもっとすごい医師たちがいるということを知ってもらいたいですね。学生時代の美術の先生に『ダメなものを見るな』と言われ、あまり意味が分からなかったのですが、手術にしても、その言葉通り良い手術だけを見続けていると、その意味が分かってくる。そして、自分も良い手術ができるようになっていくんですね。若手医師たちにも、学会などを通じてその世界を見せてあげれば、すぐに吸収します。多くの経験をし、成長して、美しい手術ができる医師になってくれればと思います。」

看護師レポート・54

海外派遣で体験した医療の姿。看護の大切さを伝えていきたい。

伊藤 万祐子



私のいところがみんな看護師で、自分も看護師になるものと思っていました。看護師になり、患者さんのケアや患者さんと話をするところが楽しくて、やりがいもありました。4年目のときに「少しリフレッシュしよう」と看護職を離れ、ジャマイカに1年、語学の勉強をしに行きました。楽しかったことは現地の人とのコミュニケーション。ですが、医療後進国の現状に触れて看護の大切さを知り、仕事として関わりたい、それなら得意とする看護の仕事でやってみようと、帰国後に復職し、国際医療救援部での活動を目指しました。

国際医療救援部の看護師派遣では看護経験、英語力が問われます。志してからの道のりは長く感じましたが、今年の1月よりウガンダの医療支援事業に携わりました。ウガンダの街の衛生環境や人々の栄養状態は悪く、病院での看護の質は改善が必要でしたが、現地の看護師さんのがんばりと意欲に刺激されました。それに応えようと直接指導するだけでなく、書面にして形にしておくなど、継続性を持つ関わりができるよう無我夢中で、とても充実した、忘れられない経験ができました。

日本で働いていたときの休みには、国内・海外旅行に出かけました。ウガンダより戻ってきてからの休日は、英会話教室に通っています。海外で活動するには、語学は重要です。いつかは戦傷外科の現場で働くことが目標です。そのために経験を積み、勉強を続けていきたいと思っています。



長い休暇が取れるときには大好きな旅行へ。長崎・軍艦島(左)やドイツ・ベルリンの壁の前(右)で友人と一緒に。

MAYUKO ITO

4月21日愛媛県生まれ。松山赤十字看護専門学校卒業後、当院に就職。消化器内科、血液内科、神経内科、ICUと、多くの病棟看護を務めながら、国際医療救援部の研修に赴く。平成27年1月よりウガンダ北部医療支援事業に派遣され、6月に帰国した。

食だより

運動について

栄養管理課 管理栄養士 山口 翔平

過ごしやすい季節となり、外出や運動をする機会が増えてきたのではないのでしょうか。今号は、「運動」について着目しました。

メタボリックシンドロームをはじめとする生活習慣病予防の目的で、厚生労働省が策定した「健康づくりのための運動基準2006・運動指針2006」というものがあります。その後改定され、「健康づくりのための身体活動基準2013」として、新しい基準が定められました。

●健康づくりのための身体活動基準

身体活動の強度と量を用いて、日常の活動を数値化し、生活習慣予防を心がけられるように設定されています。

★身体活動の強度(強さ)を表す単位 **メッツ**

(例) 1メッツ：座って安静にしている状態

3メッツ：通常歩行

★身体活動の量を表す単位「身体活動の強度(メッツ)×実施時間(時)」

(例) 通常歩行(3メッツ)を1時間行う→3メッツ×1時間＝3エフササイズ



●3つに分類される身体活動

★身体活動…安静にしている状態より多くのエネルギーを消費するすべての営みのこと

★運 動…身体活動のうち、体力の維持・向上を目的として、計画的・意図的に実施するもの

★生活活動…運動以外の身体活動を指し、職業・家事活動上のもの

●目標

★身体活動…3メッツ以上の強度の身体活動を

毎日60分(23エフササイズ/週)

★運 動…3メッツ以上の強度の運動を

毎週60分(4エフササイズ/週)

生活習慣病の患者さんにおいては、運動に伴う血圧の上昇など、心血管事故を起こす可能性があります。必ずかかりつけ医に相談してください。また、運動を行う際には適度な休憩をとり、水分補給を忘れず、安全に配慮して行いましょう。

運動(例)

- 2.5メッツ：ストレッチ、ヨガ
- 3.0メッツ：ボーリング、フリスビー
- 4.0メッツ：卓球、水中運動
- 4.5メッツ：バドミントン
- 5.0メッツ：野球、ソフトボール
- 6.0メッツ：ジャズダンス、スイミング
- 7.0メッツ：ジョギング、テニス
- 8.0メッツ：サイクリング、ランニング、水泳(クロール)

生活活動(例)

- 1.0メッツ：テレビ・音楽鑑賞
- 1.5メッツ：食事、運転
- 2.0メッツ：料理、ゆっくりとした歩行
- 3.0メッツ：普通歩行、階段を下りる、室内の掃除
- 4.0メッツ：自転車に乗る、介護 など

お薬



薬剤部 薬剤師 上野 沙恵子

「不眠」と「お薬」について

「眠ろうとしても眠れない」「寝つきが悪い」、そんな経験はありませんか？ 旅先で枕が変わった、心配事がある、お薬の副作用で眠れなくなるなど原因はさまざまですが、多くの場合、原因が解決すると数日から数週間うちに眠れるようになります。

しかし、ときには不眠が改善せず、長期間にわたり持続する場合があります。不眠が続くと、口中にあらゆる不調が出現するようになります。倦怠感・意欲低下・集中力の低下など、多岐にわたります。

不眠症状は次の4つのタイプに分けられ、それぞれの症状に合った睡眠薬が処方されます。

入眠障害

寝つきが悪く、眠ろうとするほど目が覚める

中途覚醒

眠りが浅く、途中で何度も目が覚める

早期覚醒

早朝に目が覚めてしまい、二度寝ができない

熟眠障害

ある程度眠っても、ぐっすり眠れたという満足感(休養感)が得られない

●睡眠薬とお酒

お酒は睡眠にとって百害あって一利なし。特に深酒は禁物です。寝酒をすると寝つきが良くなるように思えますが、効果は短時間しか続きません。飲酒後は深い睡眠が減り、早朝覚醒が増えてきます。お酒は楽しむもの。不眠対処には使いけません。

●睡眠薬についていろいろ？

答えは「NO」です。現在の不眠治療は睡眠薬を用いた薬物療法が中心です。

「睡眠薬は一度使い始めると止められなくなり、次第に薬がないと眠れなくなりそうです怖い。」そう思い込んでいる方が多いようですが、最近の睡眠薬にはそういった心配はありません。かつて用いられた睡眠薬は、効果が強力な反面、副作用も強く、安全性に問題がありました。しかし、現在広く使われている睡眠薬は、不安や緊張をやわらげて眠りに導くので、自然に近い眠りが得られ、副作用も少なく安心して使えます。また、依存性の少ないお薬も開発されています。ただし、長期にわたって漫然と使い続けるのはよくありません。

自分の判断でお薬を減らしたり、止めてしまうことで不眠が悪化する場合があります。不安なこと、気になることがあれば、まずは医師、薬剤師に相談しましょう。



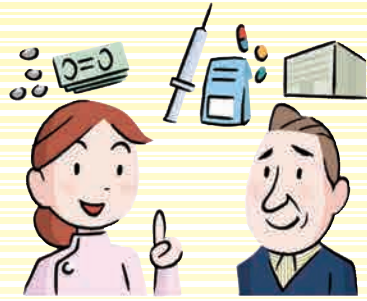


がんサポートチームからのお知らせ がん相談 支援センターについて

医療ソーシャルワーカー 野村美奈子

vol.27

ご自身やご家族が、がんと診断されたとき、「頭が真っ白に…」という経験をされる方は少なくありません。そして病気が生活のあらゆる場面に関わってくることもあります。「これからの生活はどうなるのだろうか」「仕事は続けていけるのだろうか」「家族にはどのように病気を伝えたらいいのだろうか」など、さまざまなことで思い悩むことが出てくるかもしれません。



「治療に伴って起こる副作用」「医療費の問題」「治療の選択」、さらには、「自宅でできるだけ療養生活を続けていくにはどうしたらいいのか」「新たな療養場所として、緩和ケア病棟などへ入院をしたほうがいいのか」など、さまざまなことを検討する必要があります。

こういったさまざまな療養の場面で、「誰かに相談したい」「話を聞いてほしい」と思ったときは、ぜひ、「がん相談支援センター」を思い出してください。当

院は国で指定された地域がん診療連携拠点病院としてがん相談支援センターを設置しています。まずは、ソーシャルワーカーが患者さんやそのご家族のお話をうかがいます。そして、気持ちの整理や必要な情報整理を行うお手伝いをいたします。必要に応じて、がんに関する専門の知識を持った看護師の話を聞いていただけるよう調整も行っていきます。

がん相談支援センターの利用は、当院の患者さんのみでなく、他院で受診中の方でもご利用いただけます。話をし、一緒に考えていくことで、ご自身の気持ちも整理されていくことがあるかもしれません。また、そのときに必要な情報を提供させていただくことで、からの生活を安心して送っていただけるよう支援をいたします。

国からはがん相談支援センターにおいて、がん治療を続けながら働いていくなど、就労支援を行っていくようにも謳われています。「こんなことでも相談していいの？」という場合でも、お気軽に声をかけてください。場所は本館2階8番窓口です。



新しく作成した「がん相談支援センター」のパンフレットを各所に設置しております。詳しくはそちらをご覧ください。

がん相談支援センター 当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。TEL:06(6774)5152 FAX:06(6774)5126 syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

[国際医療救援部からのお知らせ]

REPORT

NHKスペシャル「戦後70年ニッポンの肖像」 ウガンダロケ帯同記

国際医療救援部 副部長 渡瀬 淳一郎

終戦記念日の8月15日に放映されました「NHKスペシャル」において、当院が深く関わってきましたアフリカ、ウガンダ共和国にあるカロンゴ病院が取材先の一つとして取り上げられ、放映されました。

今回、このウガンダの病院が取り上げられたのは、もともと日本赤十字社が約6年前からこの地で医療支援をしていたことに始まります。そして当院の国際医療救援部の中出雅治部長が今年、映画「風に立つライオン」の医療監修をケニアで行った際、今回のメインコメンテーターでもあり、この映画に出演されている女優の石原さとみさんに、内戦後に似た状況にある、カロンゴ病院の話をされたことがきっかけとなり、放映に至りました。私は同事業に関わり、直前までこの病院で働いていた経緯から、現地の方々との橋渡し役となり、ロケに帯同しました。番組タイトルは、「戦後70年を越えて 日本人は何ができるのか」です。

ロケ地となったウガンダ北部地域は、1980年代半ばから20年余に渡り、「神の抵抗軍」という反政府組織による残虐な殺戮行為にさらされました。少年を誘拐し少年兵とし、少女を性的奴隷とするなどの行為が、当時国際的に大きく非難されましたが、日本でクローズアップされることはほとんどありませんでした。

番組では、日本人が今後、世界とどのように関わっていくべきかの一つの例として、現地で医療支援をしている私たちに焦点が当てられました。当院から派遣されていた伊藤万祐子看護師とともに素人とは思えない手つきで医療介助をする石原さん、そして伊藤看護師はただ現地の人々を助けるだけではなく、私たちが去った後も良いシステムが残っていくことを目標に活動をしていると力強く語りました。

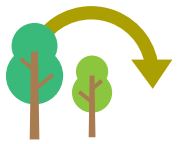
当院が5年余りの歳月をかけてきた事業をこのような形で紹介していただけたことに、大変うれしく思います。この年末には石原さとみさんのウガンダ紀行番組という趣旨で、もう一度、カロンゴ病院および私ども日本赤十字社が取り上げられる可能性があるとお聞きしています。今回見逃された方も、次回はぜひご覧ください。



現地の患者さんと話す石原さとみさん。右が伊藤万祐子看護師。

石原さとみさん(左から4番目)と事業スタッフ。

参考資料:日赤ホームページ「ウガンダ北部医療支援事業」、NHKホームページ「NHKスペシャル戦後70年ニッポンの肖像」



「かかりつけ医」を持ちましょう

700を超える「登録医」の先生方が、当院地域医療連携活動にご協力いただいています。

◆地域医療連携とは

地域医療連携とは、国が推進しているもので、専門的な治療・手術、救急医療の役割を担う急性期病院やリハビリ、療養を行う病院、日常的な診察や健康管理を行う診療所などが、各々の役割や機能を分担しながら連携し、地域全体で最適な医療を患者さんに提供するというものです。

◆病診連携(紹介・逆紹介)の推進

当院は急性期医療、高度専門医療、救急医療の役割を担っており、地域の中核病院としての機能を果たすべく努力をしています。そのためには「病診連携」が重要です。専門性の高い医療などを必要とする患者さんをひとりでも多く治療させていただくため、当院受診をご希望の方は、まず診療所に相談され、紹介状をお持ちになってご来院ください。また、病状が安定した患者さんには、紹介元やご希望の診療所などに逆紹介いたします。

※紹介状がない初診患者さんは、選定療養費として5,400円を徴収します(保険外自費)。

◆「かかりつけ医」を持ちましょう

「病診連携」を行うには、身近にいて健康相談ができ、日常的な診療(風邪などの初期治療、慢性疾患の対応や投薬など)を行う「かかりつけ医」をお持ちいただくことが大切です。「かかりつけ医」をお探しの方は、2階総合受付「かかりつけ医紹介窓口」でご相談ください。

医療連携のイメージ

かかりつけ医(診療所など)

日常的な診察や健康管理を行い、必要ときには適切な病院・診療科を紹介。

- ・風邪などの初期治療
- ・慢性疾患の対応や投薬
- ・健康相談 など



紹介

専門的な検査治療や入院手術

大阪赤十字病院

重症の患者さんや、救急の受け入れを中心に、専門的で高度な治療・検査を行う。

- ・救急医療
- ・専門的な治療や検査
- ・入院治療や手術 など



逆紹介

症状の安定
慢性疾患の継続治療

◆「登録医」制度について

当院は「地域医療支援病院」に認定されており、地域医療の連携推進に努めています。当院の地域医療推進にご理解をいただいた地域の医療機関の先生方に「登録医」となっていただき、ご支援ご協力をお願いしています。既に700を超える「登録医」の先生方と連携を深めています。

※ご自宅近くの「登録医」をお探しの場合は「かかりつけ医紹介窓口」(2階総合受付)でご相談ください。

今号からスタートした「登録医紹介ページ」では、当院の「登録医」を紹介し「かかりつけ医」を探してください。

新コーナーです!

登録医紹介



医療法人大平会 大森クリニック



大森 孝平院長

- 院長/大森 孝平
- 診療科/泌尿器科・内科・人工透析
- 住 所/大阪府大阪市東成区東小橋1-10-6
- 電 話/06-6977-8361 ● FAX/06-6977-8362
- 休診日/外来:日・祝、人工透析:日
- 診療時間

	外 来	月	火	水	木	金	土
午前 (9:00~12:00)	○	○	○	○	○	○	○
午後 (16:30~18:30)	○		○			○	

※特殊外来あり。要予約で承ります。
糖尿病/月・水・金、循環器科/木・金、腎臓内科/木、肛門科/土
※人工透析/月・水・金 6:45~22:00、火・木・土 6:45~17:00

地域の皆さまへ
明るく親しみやすいクリニックとして平成27年7月、施設を新たにすることにより、医療内容の充実を図り、地域住民の健康増進に貢献してまいります。一般内科、泌尿器科以外にも各専門医も多数配置しておりますので、お気軽にご相談ください。

当院の特長
大阪赤十字病院に18年間在籍し、平成16年に玉造で、一車椅子の透析患者さんが楽に通えるクリニックを目指して開院。平成27年7月、さらに良い環境設備および高度な医療を求めて新設しました。早朝6時45分〜夜間22時まで、コンピューター化された透析システムで患者さんをサポート。透析室は風を感じない空調システムを採用し、快適な環境で透析治療を受けていただけます。車椅子にも対応した無料送迎(人工透析患者に限る)で、遠方利用も可能です。



▲JR玉造駅から徒歩2分。無料駐車場も完備

辻 賢太郎クリニック



辻 賢太郎院長

- 院長/辻 賢太郎
- 診療科/内科・胃腸科・消化器科
- 住 所/大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-52
ウェルライフ上本町202
- 電 話/06-6772-3939 ● FAX/06-6772-3951
- 休診日/土午後・日・祝
- 診療時間

	外 来	月	火	水	木	金	土
午前 (8:15~12:15)	○	○	○	○	○	○	○
午後 (17:00~19:00)	○	○	○	○	○		

地域の皆さまへ
現在までに数万件に及ぶ胃カメラ、大腸内視鏡を経験し、苦痛を最小限におさえた安楽な内視鏡検査、治療を行うつづハイレベルな内視鏡診断、治療技術を提供できるよう日々努力しています。今でも「胃や大腸の検査は苦しいから受けたくない」と思っておられる方は、当クリニックにご相談ください。

当院の特長
大阪赤十字病院消化器内科で14年間在任し、平成19年3月、大阪赤十字病院すぐ西隣のクリニックモール内に胃カメラや大腸内視鏡検査を中心とした内科クリニックとして開院いたしました。大阪赤十字病院と医療連携を行い、質の高い診療を患者さんの立場から考え、さまざまニーズに対応し、ヘルスサポートさせていただきます。



▲当ビル2階・医院入り口

Topics Box

トピックス & ニュース

News

入院セットレンタルサービスを開始します

平成27年10月5日より、入院中に必要なアメニティセットのレンタルサービスを導入しました。入院中に必要となる、寝巻・タオル類・日用品を、一日単位でレンタルすることができます。サービス内容は次の通りです。ぜひ、ご利用ください。

▼アメニティセットリスト

項目	
寝巻 (男女兼用) (いずれか)	パジャマ
	甚平
	ゆかた
	つなぎ
タオル類	バスタオル
	フェイスタオル
日用品類	歯ブラシ、歯磨き粉
	コップ
	ティッシュペーパー
	ストロー
	箸、スプーン、フォーク
	イヤホン
	共有品
	リンスインシャンプー

※個室の場合は、スリッパもお使いいただけます。

▼アメニティセットご利用方法

料金 日額417円(税込450円)

入院時 アメニティセット申込書兼同意書に必要事項を記入いただき、病棟クランクまでご提出ください。病棟スタッフより「利用カード」をお受け取りください。

入院中 寝巻・タオルの交換が必要な際には、利用カードをご提示ください。

退院時 利用カードのご返却をお願いします。

退院後 コンビニエンスストアまたは郵便局にてお支払をお願いいたします。
※医療費とは別に指定の請求先に請求書が届きます。

●詳細は2階「入院前サポートセンター」に掲示しているポスターをご覧ください。



〈利用を中止される場合〉
別紙「利用中止届」に必要事項を記入し、ご提出ください。

お問い合わせ先
(アメニティセット提供者)

株式会社アメニティ
[本社]
東京都千代田区神田駿河台2-10-4
[新大阪営業所]
大阪市淀川区西中島5-14-10

0120-918-859
フリーダイヤル 土・日・祝日除く 9:30~17:00

Event

大阪赤十字病院「第6回 糖尿病オープン教室」を開催します 第6回テーマ：糖尿病の合併症について知ろう!

糖尿病は、発症予防、早期発見・治療、合併症の予防が重要です。生活習慣病と言われる糖尿病は、元気な今、治療を始めるときです。

- 日時／平成27年11月11日(水) 13:30~15:30
- 会場／大阪赤十字病院 1階 正面玄関ロビー ●参加費／無料
- お申し込み／不要(受講される方は、直接会場へお越しください。)
- 内容／講演①田崎 亜矢子(当院 臨床検査技師、日本糖尿病療養指導士)
「検体検査の項目について」
②能木 沙織(当院 薬剤師、日本糖尿病療養指導士)
「知って得する糖尿病と薬」
③小杉 圭右(こすぎ内科クリニック 院長)
「クイズで学ぶ糖尿病」
・糖尿病療養指導士による血糖測定、血圧測定など
・医師、糖尿病療養指導士による健康生活相談
- お問い合わせ先／医療社会事業課 TEL:06-6774-5151(直通)
2階⑧番窓口(受付時間:平日 8:30~17:00)



▲昨年のオープン教室の様子

川柳募集!

糖尿病に関する川柳を募集しています。川柳は、1階・2階・3階外来と東4階病棟に設置してある院内ボックスへ、投稿してください。

募集期間 10/2(金)~10/30(金)

●編集後記

今年の夏も暑い日が続き…、かと思えば急に涼しくなって秋めいてきたり。気温の変化が激しいので、皆さん体調には十分気をつけてくださいね。とは言っても過ごしやすい季節になってきたので、紅葉や秋の味覚など、秋ならではのものを楽しみたいですね。いつもの風景も、季節によって見せる顔を変えてくれるので、この時期ならではの雰囲気を感じたいと思います。私は最近初めて陶芸を体験しました。何歳になっても初めて挑戦することはドキドキしますが、楽しいです。過ごしやすい気温、夜も長いので、いつもはしないことを始めてみる良い季節かもしれません。皆さんも`良い秋、をお過ごしください。(Y.N)

人事異動情報 (平成27年7月1日~9月30日)

採用 (7月1日付) ●消化器内科/医師・澤井 勇悟 ●脳神経外科/専攻医・小原 次郎 (8月1日付)
●呼吸器外科/医師→非常勤嘱託医師・川邊 正和 (8月25日付) ●放射線治療科/非常勤嘱託医師・光吉 隆真 (8月28日付) ●放射線治療科/非常勤嘱託医師・中村 清直 (9月1日付) ●不整脈内科/医師・中川 英一郎 (9月2日付) ●糖尿病・内分泌内科/非常勤嘱託医師・綾野 志保

退職 (7月31日付) ●救急科/副部長・村井 隆太 ●消化器内科/医師・松田 史博
●リウマチ・膠原病内科/常勤嘱託医師・田淵 裕也 (8月31日付) ●産婦人科/副部長・川島 直逸 (9月30日付) ●眼科/副部長・田口 朗 ●糖尿病・内分泌内科/医師・松田 優樹 ●病理診断科/医師・竹内 康英 ●産婦人科/非常勤嘱託医師・西岡 良泰

病院のご案内

- 受付時間(月~金) (診療開始は午前8:45からです)
初診/月曜日~金曜日 8:30~11:30 再診/月曜日~金曜日 8:00~11:45
- 休診日 土・日・祝・5月1日(本社創立記念日)・12月29日~1月3日
- 診察券 診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会 (病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護師にご相談ください)
平日/14:00~19:00 休診日/10:00~12:00、14:00~19:00
小児病棟(平日・休診日とも)/14:00~19:00
- 保険証等 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。
また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

当院は 敷地内全面禁煙です

当院は平成22年12月1日より、敷地内全面禁煙を実施しています。ご理解とご協力をお願いします。



大阪赤十字病院

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30 平成27年10月発行

■お問い合わせ

TEL:06-6774-5111 (代表)

大阪赤十字病院 <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>
赤十字全般 <http://www.jrc.or.jp/>

